

森のおくりもの

1

月



リス



イラスト：秋葉そよか（小3）

あけましておめでとうございます。新しい年がやってきました。といっても、森の動植物には関係のないことだろうとは思いますが……。昨年はたいへんなことばかり続きましたが、今年は平穏な年でありますよう祈るばかりです。新しい年も太白山自然観察の森をよろしく願いたします。

（菊池）

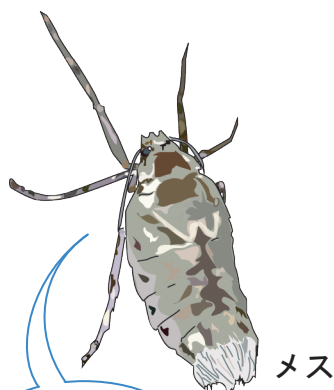
冬の寒さにもまけない

「フユシャク」の仲間

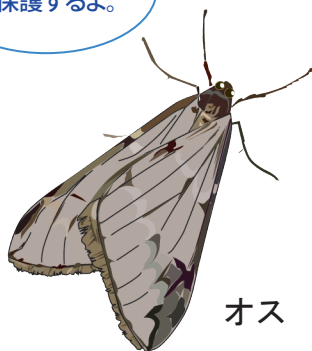
フユシャクとは、冬に成虫になって活動するシャクガ科の総称です。

寒さが一段と厳しくなる冬に成虫となり、餌も食べないで産卵し、生涯を終える虫がいます。今回はそんな「フユシャク」の生活を紹介します。

飛べないメス



卵に自分の毛をつけて保護するよ。



年1回、冬季（晩秋～早春）に成虫となります。メスは翅が小さく、飛べません。（オスは普通のカと同じく飛ぶことができます。）フユシャクのメスは、なぜ、翅が短くなったのでしょうか？冬の寒さに耐えるため、体温を奪う翅が縮まったのでしょうか？天敵の少ない冬に活動することで飛んで逃げる必要がなくなったのでしょうか？産卵を行なう体は重たく、冬の寒さでは飛ぶことが困難なので、飛ばずにフェロモンで♂を呼ぶことにしたのでしょうか。→メスは飛べない代わりにお腹の先端よりにおい（フェロモン）を出してオスを呼ぶコーリングを行います。

はっきりしたことはまだわかっていないので、いろいろ想像するのも楽しいですね。メスは蛹の段階で一度は長い翅が構成されるにも関わらず、その後翅が縮まるといいます。不思議ですね。

イモムシ毛虫は、空を飛ぶことを夢見てひたすら餌を食べているのだと思っていたけれど、そうではなかったのですね。

餌を食べない

口吻が退化していて、餌を食べません。成虫になるときの環境が、氷点下になる時もあるので、凍結の原因となる餌を食べないと推定されています。餌自体、冬は少ないですからね。

幼虫はシャクトリムシ



春にみられ、初夏には土の中で蛹になって冬まで眠ります。(夏眠)

どうして、こんな餌のない寒い時期に成虫になるのでしょうか？天敵が少ないから？寒いのが苦手な、くいしんぼうな私には考えられません・・。

【レンジャー：黒川 周子】



(シジュウカラ)

バードテーブルに集まる野鳥たち



(ヤマガラ)

毎年、12月からセンター裏庭にバードテーブルを設置しています。今シーズンは森に食べ物が多いせいか小鳥たちの集まりもいまひとつの感じです。しかし、常連のシジュウカラ、ヤマガラはもちろん初日にはウメドキの実を食べにメジロが数羽集まってきました。その他、アオジ、キジバト、スズメ、ヒヨドリ、ガビチョウなど。後半からはカシラダカも顔を見せたようです。今年はまたどんな鳥たちが集まってくるのか楽しみです。バードテーブルは3月末まで設置する予定なのでみなさんどうぞお越し下さい。

【レンジャー：齋 正宏】

名前	特徴	餌台での食べ物	出現率
 シジュウカラ	胸からお腹に見えるネクタイのような黒い筋が特徴。観察の森ではどの季節も見ることが出来る。	ヒマワリの種 牛脂	99%
 ヤマガラ	お腹がオレンジ色。昔はおみくじ引きの芸に使われていたこともある。『ニーニー』とかわいく鳴く。	ヒマワリの種	98%
 スズメ	餌台には群れで集まってくる。ほっぺたの黒い斑点がかわいい。	ヒエ・アワ 古米	95%
 アオジ	黄色みがかかった緑色に斑点がまじる。オスは目の周りが黒い。	ヒエ・アワ 鶏の餌	75%
 ヒヨドリ	全身灰色でほっぺたがちょっと赤みがかかった色をしている。餌台で他の鳥をけちらす。	鶏の餌 果物類	65%
 シメ	餌台でヒマワリの種を独り占めして食べる様子を見ることができる。目つきがするどい！	ヒマワリの種	20%
 カシラダカ	頭の羽が立っているところからその名前がついたらしい。渡り鳥(冬鳥)として日本に渡ってくる。	ヒエ・アワ 鶏の餌	5%
 アトリ	胸のオレンジ色が鮮やか。冬鳥として日本に渡ってくる。群れで行動することがおおい。	ヒエ・アワ 鶏の餌	10%
 ガビチョウ	原産地は中国だが『かごぬけ』の鳥として定着する。特定外来生物に指定されている。	ヒマワリの種	40%

※ 鶏の餌 とうもろこし、マイロ、大豆油かす、なたね油かす、米ぬか、ふすま、魚粉などが原料の鳥の餌

※ 出現率 これはあくまでも個人の感覚を数字にしたもので正確なデータにもとづくものではありません。ごめんなさい^^

開園20周年記念講演会「太白山いまむかし」

太白山の周辺環境は、昔と今では大きく変わっています。戦後の伐採や山火事、太白団地の造成、高速道路の架設工事などにより、豊かな森は減少していきました。自然観察の森が整備されたことにより一旦環境が改善されましたが、資源としての価値を失った森の維持管理は難しく、荒廃が進んでいます。これに伴い様々な動植物にも衰退が見られることから、どのような対応をすべきか、お二人の演者に講演していただきました。

「観察の森の雑木林と3種の昆虫」

高橋雄一 氏（自然観察センター元館長）

高橋元館長は宮城県を代表する昆虫の研究者で、自然観察の森を最もよく知っている人の一人です。講演では、クワガタムシ類、シロスジカミキリ、ヒメギフチョウの衰退と雑木林の荒廃が関係していることや、これらの昆虫を増やすために必要な方法について解説していただきました。高橋元館長は九州産のオオクワガタを持参し、それがペ

ットショップでも買えること、飼育に飽きて放逐されれば地域個体群が攪乱されてしまうことをとても心配していました。また、ヒメギフチョウにかける熱い想いも伝わってきました。我々も高橋元館長の意見を参考に、萌芽更新によりシロスジカミキリの産卵に適した若木を生産したり、クワガタの幼虫の餌となる菌類の繁殖した枯木を供給したり、ヒメギフチョウの幼虫の食草であるトウゴクサイシンが増えるような雑木林の維持管理を行っていきたいと考えています。



仙台市の虫はスズムシだけ、
私はヒメギフチョウだと思っ
ています。

「絶滅のおそれのある野生動植物種の野生復帰に関する基本的な考え方について」

浪花伸和 氏（環境省自然環境局野生生物課）



浪花さんは、上信越高原国立公園のレンジャー経験者です。講演は、トキやミヤコタナゴなどの絶滅危惧種の話を中心とした、とても難しい内容でした。絶滅回避のための移植のメリット、デメリット、実施までの必要な手順などが解説されました。例えば、太白山で見られなくなった生き物など（普通種も含む）を周辺から移植しようとする場合、科学的調査、合意形成、実施、モニタリングなどの手順が必要です。昔と今では、ずいぶん考え方も変わってきているようです。我々も、もっと勉強していかなければならないと実感しました。

資料はこちら⇒ <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=13648>

【レンジャー：林 義雄】

新しい年がやってきました！ 森の中で元気を再起動してみませんか！



去年は、東日本大震災をはじめとして大きな災害が続いた年でありました。今年が良い年でありますようひたすら願うばかりです。

さて、太白山自然観察の森は本格的な冬となり、12月に設置したバードテーブルには、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリなどの多くの野鳥が集まってきてにぎやかです。

そして、にぎやかといえば、この冬は冬のキノコで森がにぎやかになると予想していたのですが、これが大きくはずれてしまいました。言い訳になりますが、私が自然観察センターに勤務して初めての冬なのにもかかわらず、全くの想像のみで11月号の「森のおくりもの」の原稿を書いてしまったことが大きな原因のようです。さらに言い訳の上塗りをしますと、キノコには豊作と不作の年があり、たまたま今期は不作の年にあたったものと勝手に理由を付けております。負け惜しみかもしれませんが・・・・・・・・。

特に期待していたのはシモフリヌメリガサでしたが、自然観察の森ではまだ見ることはできませんでした。次の機会に紹介できればと思っております。また、エノキタケについては、自然観察の森の外周で1株だけですが確認しております。雪が降っても発生しますので、こちらはまだまだチャンスはあると思います。見ごたえのある大きな株が見つかりましたら写真と共に皆様に報告したいと考えております。雪の下から頭を持ち上げてくるエノキタケが見つかったら元気を分けてもらえそうな気がするかもしれません。

キノコに限らず冬には冬ならではの森の楽しみ方がたくさんあります。今年もまた太白山自然観察の森へおいでください。そして、この森で元気を再起動していただければと思っております。

今年も平穏な年でありますことを祈りつつ、昨年以上の皆様のご利用をお待ちしております。

【館長：菊池正行】

1月の催し



申 し込み⇒ 7日9時から電話で受付

1/21(土)

10:00~11:30

「フィールドサイン」

申 【定員】 20名

動物たちが活動した痕跡を探しながら森の中を散策します。

「第10回みんなでつくる里山あーと展」

予告

作品募集

2/1 ~

テーマ: 仙台市近郊の自然や野生の動植物に関するもの

募集期間: 24年2月1日~26日

募集内容: 【写真の部】 2Lサイズ5点以内

【絵画の部】 10号以下の作品2点以内

【クラフトの部】 2点以内

展示期間: 24年3/7~3/29(センター研修室にて)

* 作品はお返しします。



日曜は

「ガイドウォーク」の日!

1月のテーマは『冬越しの生き物たち』です

8日, 15日, 22日, 29日

10:00~11:30

* 申し込みの必要はありません。
センター前にお集まりください。

* 12月~3月まで午前だけのガイドです。

★ 詳細は観察センターまでお問い合わせください。

休館日

10日, 16日, 23日, 30日

年末年始

12月28日(水) ~ 1月4日(水)

♪ 森へおいでください♪



宮城交通バス

仙台駅前バスプール7番 または 長町駅前から
山田自由ヶ丘車庫 行きに乗り
公営アパート前 で下車、徒歩15分でセンター



車

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター



定期購読のお知らせ

住所・氏名・電話番号と、何月号から希望かを明記のうえ、80円切手12枚を同封して、自然観察センターまでお申し込みください。

2012年1月号(毎月1回5日発行)

発行: (財) 仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

* 「社のひろば」のURLにカラーで「森のおくりもの」が載っています。→ <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>